



2024年6月10日
第198号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本

発行人 助川一実
編集 情宣担当
ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

6月10日号

まもなく本格的な夏を迎えるが、近年は世界中で記録的な猛暑が続き、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来している」とも言われている。気候変動による深刻な暑さと干ばつなど世界各地で気候危機の被害は拡大している。数ある中で、主なものはサイクロン、洪水、飢餓、栄養失調、熱帯病の蔓延などである。

2023年11月末からUAEで開催された国連気候変動枠組条約第28回締約国会議（COP28）では、2030年までの行動が決定的に重要であることが強調され、対策不足が多くの人々の健康の危機を招いているとされた。もし、このまま世界の気温上昇を1.5℃に抑えることが出来なければ多くの人々が危機に瀕することとなる。これは未来の問題ではなく今の問題なのである。

そして今、世界で大きな問題とされている「気候変動」と「戦争」。この二つに密接な関係があるのだと言う。例えばシリアでは、干ばつによる食料不足により国民の不満が爆発し、元々高まっていた政権への不満をアサド大統領が力で抑え込もうとしたことにより、シリア内戦の引き金の一つになったと言われている。このように、地球の温暖化が時に戦争の引き金となることもある。

また、その温暖化を加速させているのも戦争であるのだ。ロシアのウクライナ侵攻により、森林や建物の火災、破壊されたインフラの再建で温室効果ガスの排出量は年間1.2億トン以上にもなるという。これは東京都の約2年分に相当するそうだ。更に、ロシアからの天然ガス供給が激減する中、世界各国は再び石炭に依存する状況になっている。ウクライナ侵攻前は「脱炭素社会」に向けて、世界中が段階的な削減を目指していたが世界の石炭生産量は再び増加している。

この「気候変動」と「戦争」がもたらす負のスパイラルを断ち切るために、今私たちに出来ることとは何か？

目には見えないものに対して、一人一人が感じて考えることが今私たちに求められているのではないだろうか。(K・K)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。